

< 共通論題 >

われわれは高橋是清から何を学ぶのか

座長 早稲田大学 鎮目雅人

< 趣旨 >

日本銀行総裁や大蔵大臣を歴任した高橋是清は、ペリー来航の翌年（1854=嘉永 7 年）に生まれ、1936（昭和 11）年に 81 歳で 2.26 事件の凶刃に倒れた。是清は日本の近代とともに生きたともいえ、本年は是清の没後 80 年にあたる。是清が生きたのとほぼ同じ年月を経て現代に生きるわれわれは、是清から何を学ぶのであろうか。

1892（明治 25）年、それまで官民の職を転々としていた是清は、37 歳で日本銀行に入行した。以後 20 年余にわたり日本銀行に在籍し、本店建築事務主任、西部支店長、横浜正金銀行本店支配人、同副頭取、日本銀行副総裁、同総裁を務めた。是清が日本銀行に在籍していた期間の過半において、日本は金本位制下にあった（佐藤政則『日本銀行と高橋是清』2016 年）。この間、日本銀行副総裁の職にあった 1904（明治 37）年から 1906 年にかけて欧米に出張し、日露戦争外債の発行に尽力した。1913 年、第 1 次山本権兵衛内閣の大蔵大臣となった後、計 7 回にわたり大蔵大臣を務めた。1927（昭和 2）年の昭和金融恐慌では危機の收拾に努め、1931（昭和 6）年末から 1936（昭和 11）年 2 月に暗殺されるまでの 4 年余のうち大部分の期間は大蔵大臣として「高橋財政」を先導した。

是清の業績は多岐にわたるが、とくに「高橋財政」については、後世において世界恐慌下で各国に先駆けて経済の回復を果たしたとして、高く評価されている（2003 年 5 月のベン・バーナンキ FRB 理事（当時）の日本金融学会における招待講演、2013 年 6 月のロンドン・ギルドホールにおける安倍晋三総理大臣の講演など）。「高橋財政」と名付けられているが、その内容は財政政策に止まらず、為替、金融、財政を含むマクロ経済政策の総体として理解される（岩田規久男編『昭和恐慌の研究』2004 年、鎮目雅人『世界恐慌と経済政策』2009 年）。その政策効果については研究の蓄積が厚く、数量的な検証も行われている（伊藤正直『日本の対外金融と金融政策』1989 年；飯田泰之・岡田靖「昭和恐慌と予想インフレ率の推計」2004 年；Shibamoto, Masahiko and Shizume, Masato, “Exchange rate adjustment, monetary policy and fiscal stimulus in Japan’s escape from the Great Depression,” 2013 年など）。また、是清の政策思想と中央銀行の機能の観点から、その歴史的な位置付けを探る研究も行われている（前掲佐藤 2016）。軍事費の拡大を迫る軍部との確執がもとで是清が暗殺された後、日本は本格的な戦時経済に移行し、敗戦と戦後のインフレに至る（松元崇『持たざる国への道』2013 年）。

本パネルでは、さまざまな観点から是清の業績について研究されている識者の方々にお集まりいただき、現代に生きるわれわれへの教訓を探っていききたい。